

ダイヤル プラン パラメータについて

目次

[概要](#)

[ダイヤル プランとその設定可能パラメータについて](#)

[関連情報](#)

概要

この記事は、Cisco Small Business 製品のセットアップ、トラブルシューティング、およびメンテナンスを支援する一連のドキュメントの 1 つです。

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

Q. ダイヤル プランとその設定可能パラメータについて

A. SPA では、区別できるダイヤル プランを使用して各回線を設定できます。ユーザがダイヤルした数字列を解釈する方法、およびそれらの数字列を発信ダイヤル文字列に変換する方法は、ダイヤル プランによって指定します。ダイヤル プランの SPA 構文は、MGCP および MEGACO で指定される対応する構文に非常に似ています。エンドポイントで役立ついくつかの機能拡張が追加されています。

ダイヤル プランの機能は、次の設定可能なパラメータで制御できます。

- Interdigit_Long_Timer
- Interdigit_Short_Timer
- Dial_Plan ([1] and [2])

注: その他のタイマーもパラメータで設定できますが、ダイヤル プラン自体には直接関係しません。

Interdigit_Long_Timer は、候補となるディジットシーケンスが完成しない場合に、ダイヤルされるディジットの間で許容されるデフォルトの最大時間 (秒単位) を指定します。

```
ParName: Interdigit_Long_Timer
Default: 10
```

Interdigit_Short_Timer は、少なくとも 1 つの候補となるディジットシーケンスが完成した場合に、ダイヤルされるディジットの間で許容されるデフォルトの最大時間 (秒単位) を指定します。

```
ParName: Interdigit_Short_Timer
Default: 3
```

Dial_Plan パラメータには、回線 1 と 2 の実際のダイヤル プランのスクリプトが含まれます。

ParName: Dial Plan[1] and Dial Plan[2]
Default: (*xx | [3469]11 | 0 | 00 | <:1408>[2-9]xxxxxx |
1[2-9]xx[2-9]xxxxxx | 011x.)

プランには、|文字として渡します。シーケンスのコレクションは、カッコ('と')で囲まれます。

ユーザが一連のディジットをダイヤルすると、ダイヤルプランの各シーケンスは候補として試されます。シーケンスが一致すると、一連の候補となるディジットシーケンスが形成されます。ユーザによってさらにディジットが入力されると、候補のセットが1つになるか、有効な候補がなくなるまで、減少していきます。

一連の終了イベントのいずれかによって SPA がトリガーされ、ユーザがダイヤルしたシーケンスを受け入れてコールを開始するために送信するか、無効として拒否します。終了イベントは次のとおりです。

- 候補となるシーケンスが残っていない。番号が拒否される。
- 1つの候補シーケンスのみが残り、完全に一致する。ダイヤルプランによって指定された変換後に、番号が受け入れられ、送信される。ただし、ダイヤルプランによってそのシーケンスが禁止されている場合は除く。この場合、番号は拒否されます(禁止については後述します)。
- タイムアウトが発生する。ダイヤル時に完成しなかった場合にディジットシーケンスが受け入れられ、送信されたか、完成した場合にダイヤルプランに従って変換された。
- 明示的な「送信」(ユーザが'#'キーを押す)。ダイヤル時に完成しなかった場合にディジットシーケンスが受け入れられ、送信されたか、完成した場合にダイヤルプランに従って変換された。

タイムアウト期間は、マッチングの状態によって異なります。候補となるシーケンスが完成しない場合(ダイヤル時)、Interdigit_Long_Timeoutが適用されます。候補となるシーケンスが1つ完成したが、1つ以上の不完全な候補が存在する場合、Interdigit_Short_Timeoutが適用されます。

注: スペースは無視されるので、読みやすくするため使用することができます。

ダイヤルプラン内の各ディジットシーケンスは、ユーザによって押されたキーにそれぞれ一致する、一連の要素で構成されます。要素は次のいずれかになります。

- 個々のキー '0'、'1'、'2'...'9'、'*'、'#'。
- 文字 'x' は数字ディジット ('0'...'9') に一致します。
- ブラケット内のキーのサブセット(許可範囲): '['と']'のセット(たとえば、[389]は'3'または'8'または'9'を意味します)。数値範囲は、ブラケットで囲んで指定できます。ディジット '!'ディジット(たとえば、[2-9]は、'2'または'3'または...または'9'を意味します)範囲は他のキーと組み合わせることができます。たとえば、[235-8*]は'2'または'3'または'5'または'6'または'7'または'8'または'*'を意味します。

ピリオド('.')文字)付け加えることによって、すべての要素を0回以上繰り返すことができます。つまり、"01."は"0."、"01."、"011."、"0111."などに一致します。

山カッコ '<'、ダイヤルシーケンス ': '、および送信するサブシーケンス '>' という表記を使用して、キーのサブシーケンス(空も可)を、別のサブシーケンスと自動的に置き換えることができます。たとえば、"<8:1650>xxxxxx"は"85551212"と一致し、"16505551212"を送信します。

ディジットの間に '!' 文字を付け加えることによって、シーケンス内に「外線」のダイヤルトーンを生成できます。シーケン "9, 1xxxxxxxxx" は、ユーザが '9' を押した後に、'1' が押されるまで、「外線」のダイヤルトーンが鳴ります。

シーケンスの末尾に '!' 文字を加えることによって、シーケンスを禁止 (拒否) できます。"1900xxxxxxxx!" は900 エリア コードのすべての番号のダイヤルを自動的に拒否します。

次の構文をプラン全体の前に置くことによって、Interdigit_Long_Timer および Interdigit_Short_Timer をダイヤル プランで変更できます (特定の回線に影響を与えます)。

- Interdigit_Long_Timer : 'L':' 遅延値 '
- Interdigit_Short_Timer : 'S':' 遅延値 '

注: "L=8,(...)" は、このダイヤル プランに関連付けられた回線に対してディジット間ロング タイムアウトに 8 秒を設定します。 "L:8,S:4,(...)" はロングおよびショート タイムアウト値を両方も上書きします。

シーケンスの特定のポイントで始まる特定のシーケンスのロングおよびショート タイムアウト値を変更できます。ロング タイマーの上書き用の構文は、'L' 遅延値 ' ' で、終了のスペース文字を使用します。指定する遅延値は、秒単位で測定されます。ショート タイマーの上書きを変更するには、'S' 遅延値 <space> を使用します。

関連情報

- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)